

各種外科的疾患ノ手術前後ニ於ケル赤血球 沈降速度及ビ白血球ノ核移動ニ就テ

其III 汎發性腹膜炎ヲ續發セル急性蟲様突起炎

金澤醫科大學熊埜御堂外科教室(熊埜御堂教授指導)

金澤醫科大學病理學教室(杉山教授指導)

研究科學生 田邊重樹

Sigeki Tanabe

(昭和13年8月19日受附)

内容抄録

主ニ蟲様突起炎(輸卵管炎ニ依ルモノ1名)ヨリ續發セル汎發性腹膜炎患者ノ手術前後ニ於ケル沈降速度及ビ血液像ヲ檢索シテ結果ヲ得タリ。

沈降速度ハ限局性腹膜炎ヨリ強度ニ促進セルモ尙正常又ハ輕度ノ促進ヲ示スモノアリ。術後ハ更ニ亢進シ3日目最高トナリ以後良ク治癒經過ニ並行シ正常ニ近ク。然シ死亡例ニ於テハ一般症狀險惡化セルモ反シ遲延セリ。

血液細胞ノ變化ハ限局性ノモノニ比シ白血球數輕度ニ減少セル外中性嗜好球ノ増加、淋巴球ノ減少、「エ」

嗜好球ノ消失、並ニ平均核數ノ減少尙一層強度ニシテ、術後ノ恢復モ亦遲延セリ。死亡例ニ於テハ術前ノ變化ハ術後改善ヲ見ズ、死前ハ尙増惡セリ。

血液像ト沈降速度ノ關係ニ就テハ、赤血球數及ビ血色素量トハ一定ノ關係ヲ認メ、平均核數トハ一部ハ最初ヨリ、一部ハ術後3日目沈降速度ノ充分ノ促進ヲ見タル後、良ク並行シテ正常ニ近ク、即チ其ノ關係アリ。然シ平均核數ノ恢復ハ一段ト急速ナリ。死亡例ニテハ此ノ並行關係ヲ見ズ、沈降速度ハ遲延シ、平均核數ハ減少シテ双方ノ曲線相交スルヲ認ム。

目次

緒言
第1章 實驗材料及ビ實驗方法
第2章 實驗成績
第3章 總括
第1項 沈降速度
第2項 白血球數
第3項 赤血球數

第4項 血色素量
第5項 白血球各種百分率
第6項 平均核數
第7項 血液像ト沈降速度トノ關係
第4章 考按
第5章 結論

緒 言

急性汎發性腹膜炎ハ甚ダ稀ナレドモ、血行感染ニヨリ、或ハ腹壁ノ損傷ノ際細菌ノ侵入ニヨリ惹起スルコトアルモ、最モ多キハ腹腔内臓器或ハ近接セル臓器ノ化膿竈ガ腹腔内ニ破壊シテ續發スル經過著シク急激ニシテ險惡ナル症狀ヲ呈スル疾患ナリ。然シテ其ノ原發病竈ハ蟲様突起炎最大ニシテ、河石氏ノ調査ニ依レバ蟲様突起炎ニ續發セルモノ83.6%、胃、十二指腸潰瘍

ノ穿孔及ビ外傷性腹膜炎5%、女子生殖器性腹膜炎2%ナリト。

余ハ囊ニ單純性蟲様突起炎及ビ蟲様突起ノ穿孔ニヨリ續發セル限局性腹膜炎ニ就キ報告セルガ、今回同様蟲様突起ノ穿孔ニ依リ續發セル汎發性腹膜炎及ビ輸卵管ノ穿孔ニ依ルモノノ手術前後全經過ニ亙ル沈降速度及ビ血液像ノ變化ヲ検査シタレバ茲ニ一括報告セントス。

第1章 實驗材料及ビ實驗方法

金澤醫科大學熊笹御堂外科ニ於テ手術ヲ施行シタル汎發性腹膜炎ヲ續發シタル蟲様突起炎患者6名、及ビ輸卵管炎ヨリ續發シタル汎發性腹膜炎患者1名ニツキ實驗セリ。

而シテ検査ニ使用シタル器具及ビ方法ニ關シテハ余ノ第1回報告ニ詳述セシヲ以テ茲ニハ單ニソノ概略ヲ記スベシ。

1. 採血方法及ビ順序

患者ノ耳朵ヲ消毒シ小切開ヲ加ヘ湧出スル血液ヲ以テ第1血液塗抹標本ヲ作製シ、次ニKMK式微量赤血球沈降速度測定管内ニ吸引シ第3ヲ血球計算ニ使用シ、最後ニ「ザーリー」血色素量ヲ測定セリ。

2. 計算及ビ検査法

白血球數及ビ赤血球數ノ算定ニハLevy-Hansser氏血球計算器ヲ、ザーリー血色素量ハHeilige Farbplatten-Haemometerヲ用ヒ、方法ハ第1回報告ニ於ケルト同様ナリ。

赤血球沈降速度ハ我教室ニテ考案セラレタルKMK式微量赤血球沈降速度測定器ヲ用ヒ測定方法ハ第1報ニ同ジク、溫度ハ一定ニスル爲37°C解卵器内ニテ之ヲナセリ。

血液像ハ充分ニ清拭セル載物硝子上ニ血液ヲ塗抹シ「メイギムザ」二重染色ヲ施シ、油浸装置ニテ檢鏡セリ。核分集數ノ算定ハ杉山教授ノ所謂標準法ニ依ル。正常人ノ平均核數ハ1.96ナリ。

第2章 實驗成績

急性蟲様突起炎ノ穿孔ニヨリ續發セル汎發性腹膜炎患者7名ノ手術前後ニ於ケル沈降速度及ビ血液細胞ノ變化ヲ檢索セリ。ソノ實驗成績ヲ示セバ次ノ如シ。

第 1 例

患者 山〇初〇、女、20歳。

1937年12月9日入院—1938年1月10日退院。

主訴 全腹部疼痛。

現病歴 12月7日午後突然上腹部ニ劇痛アリ嘔吐ヲ伴フ。直チニ醫師ノ診察ヲ受ケ急性蟲様突起炎ト云ハレ患部ニ氷嚢ヲ貼用ス。翌8日右側腹部ニ劇痛アリ同部ニ腫瘍ノ形成ヲ見體溫38°Cニ上昇ス。翌9日朝腹痛ハ尙増大シ腹部ノ緊張、疼痛ハ左側腹部ニモ擴大

ス。排尿困難トナル。

現症 面貌苦惱狀ヲ呈シ、脈搏ハ頻數ニシテ120ヲ數ヘ時々結滯ス。呼吸胸式ニシテ稍促迫セリ。腹部ハ輕度ニ膨隆シ腹筋防禦著明ニシテ全腹部ニ壓痛ヲ覺ヘ特ニ右側ニ甚ダシ。

手術及ビ手術所見

12月9日入院即日施行、山本學士執刀。局所麻醉。右直腹筋外切開。腹膜ヲ開クニ直チニ多量ノ輕度ニ混濁セル黃色膿汁溢出ス。大網膜ハ盲腸外側ニ癒着セリ之ヲ剝離シ蟲様突起ヲ見ルニ後上方ニ屈曲シ根部ニ穿孔アリ、ソノ周圍ニハ濃厚ナル膿汁滲漏セリ。膿汁吸引。蟲様突起切除。「チガレット」ヲ挿入シ手術ヲ終ル。

経過 手術後5日目迄軽度ノ熱發ヲ見タルモ一般症状次第ニ良好トナリ、其ノ後體温下降ト共ニ創ヨリノ膿汁排出モ減少シ極ク順調ニ経過シ32日目全治退院セリ。

血液所見 第1表第1圖。

沈降速度 手術前1時間値 25.2mm 最強度ニ促進ヲ示セリ。術後ハ軽度ニ増加シ3日目 27mmトナリ最高値ヲ示シ其ノ後ハ極ク徐々ニ遲延シ全治退院前27日目 18.0mmヲ示ス。

白血球數 術前 13160, 術後モ約同數ノ增多症ヲ續ケ8日目 8840トナリ正常數ニ復歸セルガ其ノ後ニ於テモ時々軽度ノ增多症ヲ示セリ。

赤血球數 術前 432万, 術後一時減少シタルモ5日目突然増加シ術前値ヲ超ヘタリ。然シ亦再び減少シ21日目以後ハ増加ニ向ヘリ。

血色素量 術前 85%, 術後ハ永ク減少ヲ續ケ21日目ヨリ増加シ初メ退院前27日目術前値ニ復歸セリ。

白血球各種百分率 術前中性嗜好球ノ増加, 淋巴球ノ減少ヲ示シ。術後モ一時同様ナリシガ3日目早ヤ正常率ニ歸リ以後ハ時々相對性淋巴球增多症ヲ示セリ。

「エ」嗜好球ハ術前及ビ術後1日目消失。3日目出現シタルモ8日目再び消失。其ノ後ハ常ニ出現ヲ見タルモ 0.5—1.0%ヲ示シ減少ヲ續ケタリ。

肥胖細胞 術前消失, 術後モ消失出現一定セズ。骨髓細胞ハ認メズ。プラズマ細胞ハ術後3日目及ビ11日目ニ極ク軽度ニ出現セリ。

平均核數 術前 1.52, 強度ノ核左方移動ヲ示シ術後一時尙軽度ノ減少ヲ見タルモ5日目ヨリ増加シ初メ, 「タンボン」除去後一時膿ノ瀰留ヲ見11日目平均核數ノ減少ヲ見タルモ以後ハ極ク順調ニ恢復シ21日目 1.90ニテ正常數ニ近ク27日目ハ全ク正常ニ復歸セリ。

今血液像ト沈降速度ノ關係ヲ見ルニ, 白血球數及ビ白血球各種百分率トハ共ニ其ノ變化急激ニシテ沈降速度トハ一定ノ關係認メ難ク赤血球數ト血色素量トハ本例ニ於テハ體液缺損ノ爲ト見ラルベキ異常ノ數值ヲ出シ一定ノ方向ヲ辿ラズ小ナル動搖アルモ常ニ一定ノ方向ヲ辿レル沈降速度トハ一定ノ關係求メ難シ。

平均核數ト沈降速度トハ當初ヨリ眞ノ關係ヲ保チ略々平行シテ経過シ共ニ正常値ニ向ヘリ, 然シ平均核數ノ恢復ハ稍早クシテ27日目全ク正常數ヲ示セルニ沈降速度ハ尙中等度促進ノ状態ヲ示セリ。

第 2 例

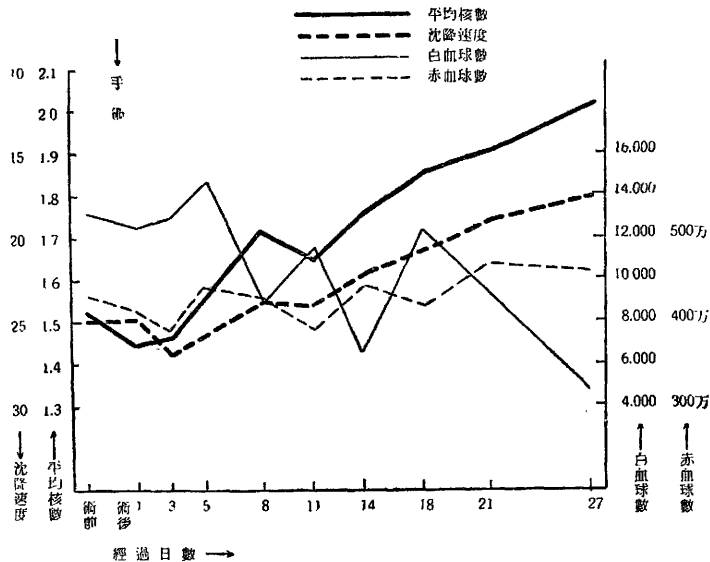
患者 町○治, 男, 15歳。

第 1 表 20歳 女 患者 第 1 例 血液像 及 ビ 沈降速度 及 白血球各種百分率

経過日數	白血球數	赤血球數	ザ血色素量	沈降速度		觀察數	中性嗜好球	嗜エ球	肥細胞	骨髓型	アラ細細胞	核型					平均核數	備考
				1時間	2時間							1型	2型	3型	4型	5型		
手術前	13,160	432万	85%	25.2	26.0	200	86.5	0	0	0	0	54	41	4	1	0	1.52	38°C 患部水囊
1	12,460	413万	86%	25.0	26.0	"	83.5	0	0	0	0	63	32	3	2	0	1.44	"
3	12,800	390万	68%	27.0	28.0	"	70.5	1.0	0.5	0	1.0	61	33	5	1	0	1.46	"
5	14,480	441万	74%	26.0	26.5	"	70.0	1.0	0	0	0	55	36	8	1	0	1.55	體温下降, 膿汁出減
8	8,840	426万	79%	24.0	24.8	"	48.5	0	0	0	0	43	45	10	2	0	1.71	7日拔糸
11	11,520	393万	74%	24.2	25.8	"	56.5	0.5	1.0	0	0.5	46	44	9	1	0	1.65	9日目タンボン除去
14	6,640	446万	78%	22.5	24.0	"	62.5	0	0	0	0	43	40	16	1	0	1.75	経過順調
18	12,160	419万	76%	21.0	23.0	"	49.5	1.0	1.0	0	0	37	42	20	1	0	1.85	"
21	9,320	468万	83%	19.0	21.5	"	67.0	0.5	0.5	0	0	34	44	20	2	0	1.90	"
27	4,760	457万	85%	18.0	21.0	"	36.0	1.5	0	0	0	28	47	21	4	0	2.01	" 32日目全治退院

第1圖 沈降速度及ビ血液像

第1患者 山○初○, 女, 20歳.



1937年9月14日入院—11月1日全治退院。

主訴 全腹部疼痛。

現病歴 2日前嘔吐ト共ニ劇シキ胃痛アリ。翌日尙輕快セズ。比麻子油20ccヲ飲用セシニ直後大部ヲ吐出ス其ノ後腹部ノ疼痛緊張増大シ壓痛激烈ニシテ嘔吐尙數回アリ。體溫38°Cニ上昇ス。

現症 顔貌ハ不安恐怖ノ狀ヲ呈シ憔悴著シク皮膚ハ乾燥シ爪部ハ輕度ニ貧血狀ナリ。呼吸ハ胸腹式ナルモ淺薄ニシテ脈搏ハ細少頻數ニシテ緊張弱シ、舌ニハ厚キ白苔ヲ被ル。胸部特別ノ所見ナキモ腹部ハ強度ニ緊張膨隆シ壓痛劇甚ナリ。特ニ廻盲部ニハ廣キ抵抗ヲ觸レ壓痛甚ダシ。

手術及ビ手術所見 9月14日入院即日施行。熊笹御堂教授執刀、局所麻醉、右直腹筋外切開。腹腔ヲ開キタルニ多量ノ黄色漿液性ノ膿汁外側ヨリ溢出シ、小骨盤腔ヨリハ濃厚、惡臭アル膿汁溢出セリ。蟲様突起ハ肥厚腫大シ壞疽ニ陥リ尖端ニ穿孔ヲ見ル。一部ハ大網膜ニヨリ覆ル。蟲様突起切除。膿汁吸引。「チガレットドレーン」及ビ「ゴムドレーン」ヲ挿入シ術ヲ終ル。

経過 手術後熱發シ38°Cニ及ビタルモ翌日下降平熱トナレリ、創ヨリノ排膿多量ニシテ下腹部ノ緊張疼痛持續セルモ14日目大量ノ排便ヲ見ルト共ニ輕快シ23日目「タンポン」ヲ完全ニ除去シテ後ハ極ク順調ニ経過シ49日目全治退院セリ。

血液所見 第2表及ビ第2圖。

沈降速度 手術前17.0mm 1時間値、強度ノ促進ヲ示シ術後尙促進シテヲ25mm, st示シ5日目稍減少, 10日目19.5mm, stニ激減シ以後ハ徐々ニ遲延シ退院前13.5mm, stトナリ極ク輕度ノ促進狀態ニテ全治退院セリ。

白血球數 術前18120, 強度ノ増多症ヲ示セルガ術後激減シ9840トナリ、3日目正常數トナレルモ5日目ヨリ再ビ激増シテ後増多症ヲ續ク膿ノ滯溜ヲ見ル爲ナリ。23日目減少シ7840トナリ以後ハ正常數値内ヲ動搖セリ。

赤血球數 手術前498万, 術後激減シテ414万トナリ以後永ク減少ヲ續ケ23日目386万トナリシモ其ノ後ハ輕度ナレドモ増加ノ傾向ヲ辿レリ。

血色素量 手術前98%, 術後減少シテ79%トナリ以後引キ續キ減少ヲ續ケ23日67%トナリ其ノ後ハ輕度ノ増加ヲ續ケ43日78%ニ恢復セリ。

白血球各種百分率 術前中性嗜好球ノ増加、淋巴球ノ減少ヲ見術後モ此ノ傾向アリシモ3日目一時正常ニ復歸シ5日目再ビ中性嗜好球74%, 淋巴球16.5%トナリタリ。然シ10日目全ク正常率ニ歸リシ後ハ白血球増多症アルモ反對ニ相對性淋巴球増多症ノ傾向ヲ續ケタリ。

大單核球 術前6.5%, 術後モ16日目2.5%ニ減少シ

タル外著變ナシ。「エ」嗜好球ハ術前消失、術後ニ於テモ一時消失セルモ3日目出現以後0.5-1%ノ減少ヲ示セリ、然シ23日以後ハ漸次増加シ43日目ハ8.0%ニ達セリ。肥胖細胞ハ術前、術後消失ヲ續ケシモ10日目出現ヲ見其ノ後著變ナシ。「プラズマ細胞ハ術後5日目及ビ37日目ニ僅ニ出現ヲ見タリ。

平均核數 術前 1.17, 極ク強度ノ核左方移動ヲ認メ、術後ハ急激ニ核數ヲ増加シ37日目2.08トナリ正常數ニ復歸セリ。

血液像ト沈降速度トノ關係ヲ見ルニ白血球數及ビ白血球各種百分率トノ間ニハ前者ハ急激ニ變化シ正常數ニ復歸スルニ反シ沈降速度ハ極ク徐々ニ遲延シ正常數ニ歸ルヲ以テ此ノ間ニ一定ノ關係ヲ認メ難ク、赤血球數及ビ血色素量ハ術前體液缺損ノ爲異常ノ數ヲ示スモ術後ハ一時減少ヨリ後増加ノ一途ヲ辿リ沈降速度トハ頁ノ關係ヲモチ並行スルヲ認メ、此ノ間ニ一定ノ關係アルヲ認ム。平均核數トハ沈降速度ガ術後最強ニ促進シ後ハ大略兩者並行シテ正常ニ復歸スルヲ認メ兩者ノ間ニ頁ノ相關々係アルヲ知ラシム。然シ平均核數ハ37日目全ク正常ニ復歸セルモ沈降速度ハ尙 15.5mm ニテ中等度ノ促進ヲ示シ平均核數ノ恢復ハ稍早キヲ認ム。

第 3 例

第3患者 山○ア○子, 女, 20歳。

1937年10月20日入院-12月6日全治退院。

主訴 腹部疼痛。

現病歴 一昨日ノ晩突然腹部全般ニ亘リ劇シキ疼痛アリ嘔吐2回伴フ、患部ニ氷嚢ヲ用ヒシニ疼痛一時右側腹部ニ局限セリ。然ルニ本日午後悪感戰慄ト共ニ疼痛ハ全腹部ニ擴大シ悪心嘔吐ヲ伴フ。

現症 顔貌ハ不安恐怖ノ狀ヲ呈シ皮膚及ビ口唇ハ乾燥シ舌ニハ厚キ白苔ヲ被ル。呼吸ハ胸式ニシテ淺薄、脈搏ハ整調ナレドモ細小頻數ナリ。腹部ハ稍膨隆シテ極度ニ緊張シ、全腹部ニ壓痛アルモ右側ハ特ニ劇甚ニシテ廻盲部ニハ堅キ抵抗ヲ觸ル。

診斷 急性蟲様突起炎穿孔ニ依ル汎發性腹膜炎。

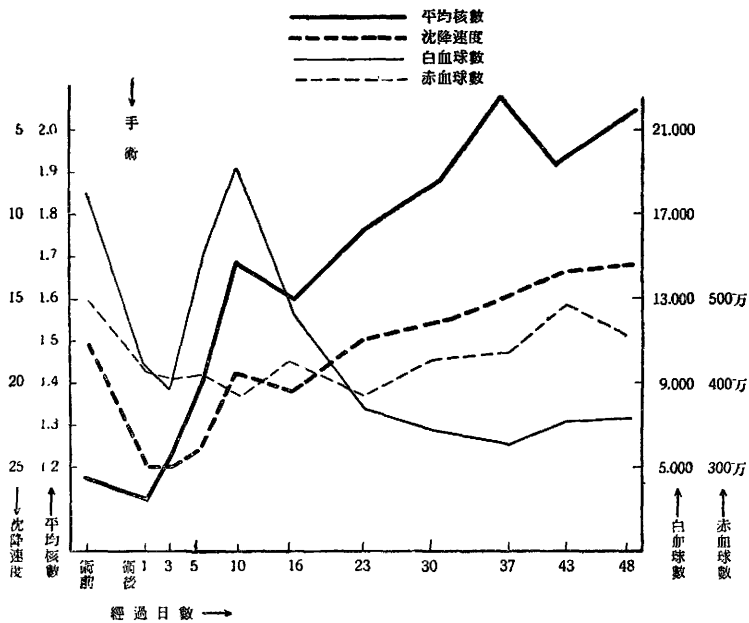
手術及ビ手術所見 10月20日夜半入院即刻施行。高橋學士執刀、局所麻醉、右直腹筋外切開、腹腔ヲ開クニ薄キ黄色ノ滲出液相當溢出シ、廻盲部ハ全ク大網膜ニ包裹サル。之ヲ剝離シ蟲様突起ヲ見ルニ充血腫大著シク根部ニ穿孔ヲ認メ穿孔部ヨリハ汚穢ナル稍薄キ膿汁流出スルヲ認ム。蟲様突起切除、膿汁吸引シ「ゴムドレーン」及ビ「チガレットツンドレーン」ヲ挿入シ手術ヲ終ル。

第 2 表 15歳 男 患者 血液像及ビ沈降速度

経過日數	白血球數	赤血球數	ザ血色素量	沈降速度		觀察數	白血球各種百分率					観察數	核型	平均核數	備考												
				1時間	2時間		肥細胞	嗜中性球	嗜酸性球	骨髄型	プラズマ細胞					1型	2型	3型	4型	5型							
手術前	18,120	498万	98%	17.0	19.8	200	77.5	16.0	6.5	0	0	0	83	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.17	38.5°C 膿排出多量	
1	9,840	414万	79%	25.0	26.5	"	79.5	14.0	6.5	0	0	0	"	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.12	"	
3	8,720	402万	70%	25.0	27.5	"	64.5	22.0	8.0	0.5	0	0	"	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.23	"	
5	15,160	405万	71%	24.0	25.2	"	74	16.5	7.5	1.0	0	0	"	32	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.40	"	
10	19,400	387万	70%	19.5	22.0	"	72	22.5	4.5	0.5	0	0	"	41	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.69	"	
16	12,360	422万	70%	20.5	22.0	"	47.5	48	2.5	1.0	1.0	0	"	36	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.60	"	
23	7,840	385万	67%	17.5	20.0	"	54.5	34.5	7.5	3.5	0	0	"	33	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.77	タンポン完全除去 經過順調	
30	6,960	425万	70%	16.5	19.2	"	45.5	45.0	5.5	3.5	0.5	0	"	40	23	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1.89	"	
37	6,040	435万	75%	15.5	19.0	"	43.5	41.0	4.5	5.5	0.5	0	"	48	24	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2.08	"	
43	7,280	490万	78%	14.0	18.0	"	44.0	43.0	4.0	8.0	1.0	0	"	40	23	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.92	"
48	7,240	454万	75%	13.5	17.0	"	37.0	54.0	6.0	3.0	1.0	0	"	45	24	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.02	全治退院

第 2 圖 沈降速度及ビ血液

第 2 患者 町○治, 男, 15 歳.



経過 術後中等度ノ熱發ヲ續ケンモ一般症状良好トナル 7-9 日目下腹部ニ疼痛ヲ訴ヘ 體温下降セズ, 「タンボン」ノ一部除去セルニ著シク膿ノ滲溜セルヲ認メ患部ヲ洗滌ヲ行フ 9 日以後平熱トナリ膿汁排出モ次第ニ減少シ, 順調ノ経過ヲトリ 47 日全治退院セリ.

血液所見 第 3 表及ビ第 3 圖

沈降速度 術前 1 時間値 18.0mm 強度ノ促進ヲ示スモ術後ハ尙増加シ 3 日目 28mm, st ニ達シ全経過中ノ最高トナル. 其ノ後極メテ徐々ニ遲延ノ傾向ヲ辿リシモ 28 日目尙 23mm, st ニテ強度促進ノ状態ナリ, 31 日目哆開セル手術創ノ二次的縫合ヲ行ヒシ爲メ沈降速度ノ恢復益々 遲延シ全治退院前 18.0mm, st ニテ強度ノ促進ヲ示シ居レリ.

白血球數 手術前 16000, 術後一時增多症ヲ續ケタルモ 5 日目 6840 ニテ正常ニ歸リタリ. 然シ 9 日目膿汁滲溜ノ爲メ再ビ 12920 ニ増加セシモ其ノ後適當ノ處置ノ爲メ減少シ以後ハ正常數値内ヲ動搖セリ.

赤血球數 術前 497 万, 術後ハ減少ヲ續ケ 18 日目 391 万トナリ以後ハ僅少半ヲ増加ノ傾向アリシモ退院時尙 440 万ナリキ.

血色素量 術前 93%, 術後ハ減少ヲ續ケ赤血球數ト同一ノ傾向ヲ辿リ 22 日目 65% トナリ以後ハ次第ニ増加

セリ.

白血球各種百分率 術前中性嗜好ノ増加 83%, 淋巴球ノ減少 11% アリ術後モ同一ノ傾向ヲ持續セシガ 5 日目一度正常率ニ復歸セリ. 9 日 13 日目ハ再ビ中性嗜好球ノ増加淋巴球ノ減少ヲ來シ(膿汁滲溜ノ爲) 18 日目ヨリ再ビ正常率ニ歸リ以後著變ナカリシモ退院前ハ相對性淋巴球增多症ヲ呈セリ.

大單核球ハ術前 6%, 術後モ大ナル増減ナク経過ス. 「エ」嗜好球ハ術前術後一時消失, 術後 3 日目出現シ 9 日目亦消失セルモ 13 日目出現後ハ永ク正常率ヲ保持シ 33 日目以後輕度ニ増加ヲ來セリ. 肥胖細胞ハ術前術後消失 9 日目ヨリ出現ヲ見タルモ 33 日目以後ハ再ビ消失セリ. 骨髓細胞, プラズマ細胞ハ全経過ヲ通ジ出現セズ.

平均核數 手術前 1.30, 強度ノ核左方移動ヲ示シ, 術後一時減少シ 3 日目ヨリ増加ヲ來シタルモ極メテ徐々ニシテ 28 日目尙 1.61 ナリ. 然シ 31 日目大キク哆開セル創ニ二次的縫合術ヲ施シ経過順調ナリシ爲メ稍急速ニ恢復シ 45 日目 1.90 トナリ正常數ニ近ケリ.

血液像ト沈降速度トノ關係ヲ見ルニ白血球數白血球百分率トハ一定ノ關係認メ難ク, 赤血球數及ビ血色素量トハ前例ノ如ク負ノ關係ヲ認メ得ベク平均核數ト

ハ、沈降速度ノ恢復極メテ徐々ナレ共大略平均核數ニ並行シテ正常數ヘノ復歸ニ向ヒ眞ノ相關々係アルヲ認ム。

第 4 例

第 4 患者 島〇峻，男，31歳。

1937年 8月 9日入院—9月 27日全治退院。

主訴 激烈ナル腹痛。

現病歴 3日前午後上腹部ニ疼痛ヲ覺ヘ嘔吐 2回アリ。就床セルニ翌日尙疼痛嘔吐アリ，比麻子油ヲ服用ス。午後下痢ヲ起スト共ニ悪感戰慄伴ヒ體温 39°Cニ上昇ス。翌日尙下痢便 1回アリ腹部ノ疼痛依然トシテ去ラズ特ニ廻盲部ニ劇シキ壓痛アルヲ氣付ク，體温 38.6°Cナリ。

現症 稍憔悴シ不安恐怖ノ顔貌ヲ呈シ脈搏ハ整調ナレ共頻數ニシテ稍細小，呼吸ハ胸式淺薄ナリ。腹部輕度ニ膨隆シ著シク緊張シ右側ノ腹筋防禦著明ナリ。壓痛ハ全般ニ之ヲ訴ヘルモ特ニ右側ニ著シク，腹筋ノ緊張ノ爲内内部腫瘍ハ觸知シ得ズ。

診斷 蟲様突起穿孔ニ依ル急性汎發性腹膜炎。

手術及ビ手術所見 8月 9日夜半入院即刻施行，熊蓋御堂教授執刀，局所麻酔，右直腹筋外切開，蟲様突起ハ肥厚腫大上半部ハ全ク壞疽ニ陥リ周圍ニ稍濃厚ナル膿汁滲溜セリ。蟲様突起切除，膿汁吸引，「チガレットツンドレン」ヲ挿入シ術ヲ終ル。

經過 術後體温ノ上昇ヲ見タルモ一般症狀ハ良好トナリ 7日目「タンボン」ヲ除去後ハ平熱トナリ至極順調ニ經過シ 49日目全治退院セリ。

血液所見 第 4 表第 4 圖

沈降速度 術前 1時間値 19.0mm 術後尙輕度ニ増加シ 3日目 23.5mm トナリ全經過ノ最高値ヲ示シ以後ハ病狀ノ恢復ニ良ク一致シ遲延ヲ見全治退院時ハ 12.0mm, st トナリ輕度ノ促進ヲ示スノミナリ。

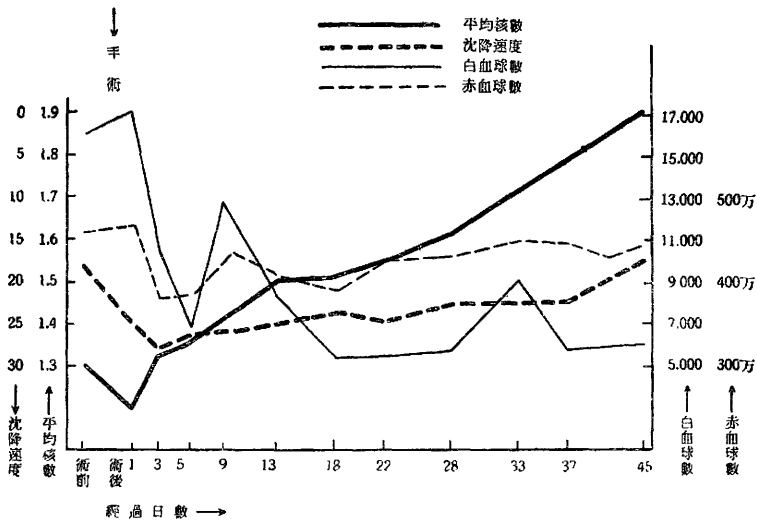
白血球數 術前 11180，術後一時術前同様ノ增多症ヲ續ケンガ 5日目正常數ニ歸リタリ。然シ「タンボン」除去ノ翌日 8日目再ビ輕度ノ增多症ヲ呈シ以後ハ全ク生理的正常數値内ヲ動搖セリ。

第 3 表 山〇子 女 20歳 患者 血液沈降速度及ビ白血球各種百分率

経過日數	白血球數	赤血球數	ザ血色素量	沈降速度		觀察數	中性好球	嗜好球	淋巴球	大核單球	嗜好球	肥細胞	骨髓型	ブマラ細胞	核型					平均核數	備考	
				1時間	2時間										1型	2型	3型	4型	5型			
手術前	16,000	497万	83%	18.0	23.0	200	83.0	0	11.0	6.0	0	0	0	0	75	20	5	0	0	1.30	38.5°C	
1	17,000	462万	85%	25.0	26.0	"	84.5	0	9.0	6.5	0	0	0	83	16	1	0	0	1.18	38°C		
3	10,360	380万	71%	28.0	29.5	"	84.5	1.5	10.0	4.0	1.5	0	0	72	24	4	0	0	1.32	38°C		
5	6,840	383万	74%	26.5	27.5	"	72.5	2.5	20.0	5.0	2.5	0	0	69	29	2	0	0	1.33	38°C 月經	タンボン一部除去膿	
9	12,920	431万	78%	26.0	27.2	"	80.0	0	16.0	3.5	0	0.5	0	61	36	3	0	0	1.42	38°C 月經	膿溜著シ	
13	8,400	404万	71%	25.2	26.0	"	77.5	3.0	13.5	6.0	3.0	0	0	54	43	2	1	0	1.50	38°C 月經	患部洗滌	
18	5,480	391万	68%	24.0	26.5	"	57.5	2.5	32.5	6.5	2.5	1.0	0	54	41	5	0	0	1.51	"	"	
22	5,440	425万	65%	25.0	26.5	"	64.5	1.0	26.5	7.5	1.0	0.5	0	53	40	7	0	0	1.54	"	排膿減少 經過順調	
28	5,600	431万	75%	23.2	25.3	"	53.5	2.0	39.0	4.5	2.0	1.0	0	51	38	10	1	0	1.61	"	"	
33	9,000	449万	76%	23.0	24.8	"	62.5	4.0	26.5	7.0	4.0	0	0	39	42	13	1	0	1.71	"	"	
37	5,760	442万	80%	22.5	24.5	"	56.0	6.0	33.0	5.0	6.0	0	0	36	47	14	1	0	1.78	"	"	
42	7,480	425万	79%	18.8	21.5	"	39.5	7.5	44.5	8.5	7.5	0	0	33	52	13	2	0	1.84	"	"	
45	6,120	440万	76%	18.0	21.0	"	47.0	6.5	42.0	4.5	6.5	0	0	36	41	20	3	0	1.90	"	月經 全治退院 47日目	

第 3 圖 沈降速度及ビ血液像

第 3 患者 山○ア○子, 女, 20 歳.



赤血球數 術前532万, 術後ハ漸次減少シ19日目401万トナリ. 其ノ後ハ増加ノ傾向ヲ辿リ退院前475万ニ達セリ.

血色素量 術前95%, 術後ハ全ク赤血球數ト同様ノ経過ヲ辿リ漸次減少ヲ續ケ19日目78%トナリ以後増加セリ.

白血球各種百分率 術前中性嗜好球ノ増加, 淋巴球ノ減少アリ. 術後モ一時此ノ傾向ヲ續ケ3日目正常率ニ復歸シ以後著變ナシ然シ19日以後ハ時々程度ノ相對性淋巴球增多症ヲ呈セルコトアリ. 大單核球ハ術前3%, 術後6%ニ増シ其ノ後モ著シキ變化ナク経過ス. 「エ」嗜好球ハ術前及ビ術後一時消失3日目出現シ5日目再ビ消失8日目以後ハ常ニ出現ヲ見経過ト共ニ程度ノ増加ヲ來セリ. 肥胖細胞ハ術前及ビ術後一時消失3日目出現セルモ其ノ後亦消失シ15日以後出現ヲ續ケタルモ著變ナシ. プラズマ細胞ハ術後一兩日程度ノ出現ヲ見タリ.

平均核數 術前1.25, 高度ノ核左方移動ヲ示シ術後1日目尙程度ノ減少ヲ見タルモ其ノ後ハ病狀ニ並行シ極ク順調ニ増加ヲ續ケ39日目1.89ニ達セリ.

今血液像ト沈降速度トノ關係ヲ見ルニ白血球數及ビ白血球各種百分率トハ一定ノ關係認メ難シ. 赤血球數及ビ血色素量トハ其ノ全経過ヲ通ジテ之ヲ見ル時一定ノ關係アルヲ認メ得可ク平均核數トハ全経過ヲ通ジテノ關係ヲ持シ大體並行セルヲ認ム.

第 5 例

第 5 患者 山○ト○子, 女, 13 歳.

1937年12月27日入院—1938年1月31日退院.

主訴 廻盲部ノ激痛.

現病歴 一昨日夕突然上腹部ニ激痛アリ嘔吐ヲ伴フ.翌日ニ至リ疼痛ハ廻盲部ニ限局シ來タレルモ疼痛, 壓痛共ニ著シク體温 37°Cニ上昇ス.翌朝浣腸ヲ施行シタルニ以後疼痛尙増大シ來ルト.

現症 顔貌ハ不安恐怖ノ狀ヲ呈シ口唇著シク乾燥シ舌ニハ厚キ白苔ヲ被ル.脈搏ハ細小ニシテ頻數ナリ.胸部ニハ特別ノ所見ナキモ腹部ハ全般ニ膨隆シ特ニ右側ハ著シク, 廻盲部ニハ堅キ抵抗アリ壓痛甚ダシ.

診斷 蟲様突起穿孔ニ依ル汎發性腹膜炎.

手術及ビ手術所見 12月27日入院即日施行, 山本學士執刀, 局所麻醉, 右直腹筋外切開. 腹腔ヲ開クニ薄キ混濁セル漿液性ノ滲出液溢出ス, 蟲様突起ハ著シク腫大肥厚シ上半部變色壞疽ニ陥リ同部ニ稍大ナル穿孔ヲ認ム周圍ニハ稍濃キ膿汁滯溜セリ. 膿汁吸引, 蟲様突起切除. 「チガレットドレーン」ヲ挿入シ術ヲ終ル.

経過 術後一般症狀稍輕快シタルニ6日以後熱發 39°C以上ニ及ビ下腹部ニ疼痛ヲ訴フ. 8日目綿帶交換ノ際膿ノ著シク滯溜セルニ氣付キ「ドレーン」ノ一部ヲ抜キ「リバノール」洗滌ヲ行フ, 其ノ後ハ體温急ニ下降シ一般症狀モ良好トナリ順調ニ経過シ35日目全治退院セリ.

血液所見 第 5 表及ビ第 5 圖

沈降速度 術前 14.2mm 軽度促進ノ状態ナリ、術後次第ニ増加シ8日目 22.5mm トナリ最高トナリ以後順調ニ 恢復シ退院前 13.5mm トナレリ。

白血球數 術前 29760 著シキ增多症ヲ呈シ術後減少シテ軽度ノ增多症ヲ示セルガ8日目急ニ 31000 ニ激増セリ。膿ノ著シク滯留セル爲メナリ。然シ適當ノ處置ニ依リ12日目ハ全ク正常數ニ復歸シ以後ハ大體生理的正常數値内ヲ動搖セリ。

赤血球數 術前 524 万、術後次第ニ減少シ12日目 389 万ニ達シ後ハ軽度ノ増加ヲ續ケタリ。

血色素量 術前79%、術後ノ減少、増加ハ全ク赤血球數ニ並行シ經過セリ。

白血球各種百分率 術前中性嗜好球ノ増加淋巴球ノ減少アリ術後1日目ハ尙此ノ傾向ヲ強メ中性嗜好球93%淋巴球3%トナレリ。然シ以後ハ中性嗜好球ノ減少、淋巴球ノ増加ノ傾向ヲトリ12日目ニハ全ク正常率ニ歸リ以後ハ著變ナシ。大單核球ハ術前5%術後モ著變ナク經過シ只12-16日目ニ輕度ノ増加ヲ示セルノミ。「エ」嗜好球ハ術前術後一時消失、8日目出現シ12日目6%ニ増加セルモ又減少シ退院前稍増加ヲ來セリ。肥胖細胞ハ術前術後ヲ通ジ消失出現一定セズ。骨髓及ビ「プラズマ細胞」ハ之ヲ見ズ。

平均核數 手術前 1.54術後輕度ノ増加ヲ見タルモ又減少シ初メ8日目 1.48ニ減少シ以後ハ順調ニ恢復シテ31日目 1.92トナリ正常ニ近ケリ。術後再度ノ核減少ヲ見タルハ排膿不充分ニテ大量ノ膿汁滯留ヲ見タル爲ニシテ、其ノ後適當ナル處置ニヨリ排膿完全トナリシヨリ核數ハ急速ニ増加シ來レリ。

血液像ト沈降速度トノ關係ヲ見ルニ白血球數、白血球百分率トハ一定ノ關係認メ難ク、赤血球數、血色素量及ビ平均核數トハ共ニ其ノ關係ヲ以テ相並行スルヲ認ム。

第 6 例

第6患者 丹〇千〇、女、39歳。

1937年8月23日入院-10月10日全治退院。

主訴 腹部疼痛。

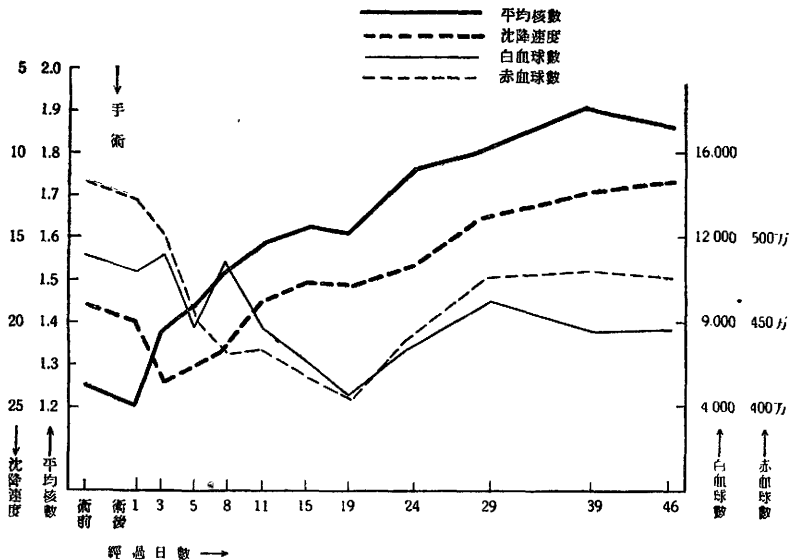
現病歴 昨夜9時頃ヨリ下腹部ニ疼痛ア

第 4 表 白血球沈降速度及ビ血液像 第4患者 島〇峻 男 31歳

経過日數	白血球數	赤血球數	ザ血色素量	沈降速度		白血球各種百分率							核型					平均核數	備考				
				1時間	2時間	觀察數	中性球	嗜好球	「嗜好球」	肥胖細胞	骨髓型	プラズマ細胞	觀察數	1型	2型	3型	4型			5型			
手術前	11,180	532万	95%	19.0	21.5	200	84.0	13.0	3.0	0	0	0	0	0	0	0	76	23	1	0	0	1.25	37.5°C 軽度體温上昇アリ
1	10,440	522万	94%	20.0	22.0	"	85.0	8.5	6.0	0	0	0	0	0	0	0	81	18	1	0	0	1.20	"
3	10,760	505万	87%	23.5	24.0	"	81.0	12.5	4.0	0.5	0.5	0	0	0	0	0	65	32	3	0	0	1.38	"
5	7,720	452万	80%	23.0	24.0	"	74.5	20.0	5.5	0	0	0	0	0	0	0	63	31	6	0	0	1.43	"
8	10,800	431万	83%	22.0	23.5	"	72.5	23.5	3.0	1.0	0	0	0	0	0	0	57	37	5	0	1	1.51	7日目タンポン除去 平熱トナル
11	7,880	434万	83%	19.0	21.5	"	69.0	24.5	4.5	2.0	0	0	0	0	0	0	47	47	6	0	0	1.59	9日目半抜糸 全抜糸
15	6,380	418万	80%	18.1	21.0	"	63.0	26.0	6.5	3.5	1.0	0	0	0	0	0	47	45	7	1	0	1.62	経過順調
19	4,580	401万	78%	18.0	20.0	"	46.5	45.0	3.5	4.5	0.5	0	0	0	0	0	49	43	6	2	0	1.61	"
24	6,500	440万	79%	16.8	20.0	"	50.0	40.5	5.0	4.0	0.5	0	0	0	0	0	42	43	12	3	0	1.76	"
29	8,720	475万	83%	14.0	18.0	"	63.0	28.0	6.0	3.0	0	0	0	0	0	0	41	42	14	3	0	1.79	"
39	7,600	480万	83%	12.5	17.0	"	67.5	20.5	6.0	5.5	0.5	0	0	0	0	0	38	40	17	5	0	1.89	"
46	7,720	475万	82%	12.0	18.0	"	47.5	43.5	5.5	2.0	1.5	0	0	0	0	0	37	43	18	2	0	1.85	49日目全治退院

第 4 圖 沈降速度及ピ血液像

第 4 患者 島○峻, 男, 21 歳.



リ。悪心嘔吐ナシ。今朝食後疼痛ハ急ニ増大シ同時ニ兩下肢ニ索引痛ヲ感ズ。

現症 顔貌苦惱状ヲ呈シ呼吸ハ胸式ニシテ稍淺薄ナリ。脈搏ハ整調, 中等大緊張良。皮膚ハ稍貧血狀ニシテ熱感アリ。舌ハ稍乾燥シ薄キ白苔ヲ被ル。胸部特別ノ所見ナク腹部ハ全般ニ軽度ニ膨隆シ, 特ニ下腹部ニ著シク兩側共著シク緊張ス。下腹部全體ニ強キ壓痛ヲ訴ヘルモ廻盲部ハ特ニ著シ。

診断

手術及ビ手術所見 8月23日入院。即日施行。熊笹御堂教授執刀。局所麻酔。右直腹筋外切開。腹腔ヲ開クニ膿性漿液性ノ滲出液溢ス。蟲様突起ハ膿中ニ遊泳スルモ, 肥大腫脹ヲ認メズ只漿液膜稍充血セルヲ認ムルノミ。膿ハ稍綠色ヲ呈シ膿囊ノ穿孔ヲ疑ヒ, 之ヲ調べタルモ膿囊, 胃部ニ異常ナシ。故ニ下方輸卵管ヲ調べタルニ右側ハ通常ノ3倍大ニ腫脹シ, ドクラウス氏腔ニハ多量ノ濃キ膿汁存在ス。膿汁吸引輸卵管ハ切除セズ。「ドレージ」ヲ挿入シ手術ヲ終ル。膿中ニハ淋菌ヲ證明セリ。

経過 術後1週間腹部ノ緊張去ラズ相當ノ排便ヲ見タルモ時日ノ経過ト共ニ消失シ膿ノ分泌モ減少シ順調ニ経過シ47日全治退院ス。

血液所見 第6表 第6圖。

沈降速度 手術前 10.5mm 1時間値ニテ極ク軽度ノ

促進ヲ示スノミ。術後ハ急激ニ促進シ1日目22.0mm, st 5日目 25.0mm, st トナリ全経過中ノ最高値ヲ示ス。以後ハ極ク徐々ニ遲延シ39日目 16.2mm, st トナレリ。

白血球數 手術前9860, 術後21040ニ増加シ以後漸減シ8日目正常ニ歸リ以後著變ナシ。

赤血球數 術前422万, 術後452万ニ増加セルガ以後漸次減少シテ14日目 355万トナリ其ノ後ハ軽度ナレ共増加ヲ續ケ術前値422万ニ達セリ。

色素量 術前71%, 術後一時増加セルモ又減少シ赤血球數ト同一ノ道程ヲ辿リ退院前術前値ヲ超ヘタリ。

白血球各種百分率 術前中性嗜好球ノ増加90%淋巴球ノ減少8%ヲ示シ術後モ一時同一ノ傾向ヲ示シタルモ次第ニ反對ノ過程ヲ辿リ8日目大略正常ニ復歸シ20日以後ハ反對ニ相對性淋巴球增多症ヲ呈セリ。大單核球ハ術前2.0%, 術後モ一時同様5日目以後僅ニ増加ヲ示シタルモ著變ナシ。「エ」嗜好球ハ術前, 術後一時消失8日目出現シ後著變ナシ。肥胖細胞ハ術前術後消失14日目ヨリ出現ヲ見タリ。「プラズマ細胞」ハ術後5日目及ビ20日目ニ僅ニ出現セリ。

平均核數 手術前 1.53, 術後1日目 1.26ニ減少セルモ其ノ後ハ病狀ト並行シテ増加シ39日目 2.0トナリ正常ニ復歸セリ。

血液像ト沈降速度ノ關係ヲ見ルニ平均核數トハ術後

第5表 沈降速度及ビ血液像 第5患者 山〇ト〇子女 13歳

経過日数	白血球数	赤血球数	ザ血色素量	沈降速度		白血球各種百分率								核型					平均核数	備考	
				1時間	2時間	観察数	中嗜好性球	淋巴球	大核単球	「嗜好球」	肥細胞	骨髓型	プラ細胞	観察数	1型	2型	3型	4型			5型
手術前	29.760	524万	79%	14.2	20.0	200	89.0	6.0	5.0	0	0	0	0	100	60	27	12	1	0	1.54	手術施行
1	23.640	506万	80%	19.0	21.5	〃	93.0	3.0	4.0	0	0	0	0	〃	51	34	13	2	0	1.66	38°C
2	10.960	438万	78%	18.5	21.0	〃	79.0	15.0	5.0	0	1.0	0	0	〃	52	34	13	1	0	1.63	37.9°C 排膿多量
4	11.400	417万	69%	20.0	23.0	〃	77.5	17.0	5.0	0	0.5	0	0	〃	60	39	10	1	0	1.62	37.5°C
8	31.000	435万	76%	22.5	24.0	〃	76.5	18.0	5.0	0.5	0	0	0	〃	61	31	7	1	0	1.48	39.2°C 膿滲溜著シ
12	8.380	389万	73%	21.5	23.0	〃	58.0	29.0	7.0	6.0	0	0	0	〃	49	49	2	0	0	1.53	体温下降一般症状可
16	7.960	401万	72%	17.5	19.5	〃	58.0	31.0	10.0	1.0	0	0	0	〃	49	40	10	0	1	1.64	良トナル
21	9.880	417万	72%	16.0	19.0	〃	52.0	40.0	5.0	1.0	2.0	0	0	〃	39	44	16	1	0	1.79	経過順調
26	5.640	449万	76%	14.0	18.5	〃	57.0	36.0	5.0	1.0	1.0	0	0	〃	33	48	16	3	0	1.89	〃
31	8.120	443万	75%	13.5	18.0	〃	57.5	34.0	3.0	5.0	0.5	0	0	〃	30	49	20	1	0	1.92	〃 35日目全治退院

第6表 沈降速度及ビ血液像 第6患者 丹〇千〇女 39歳

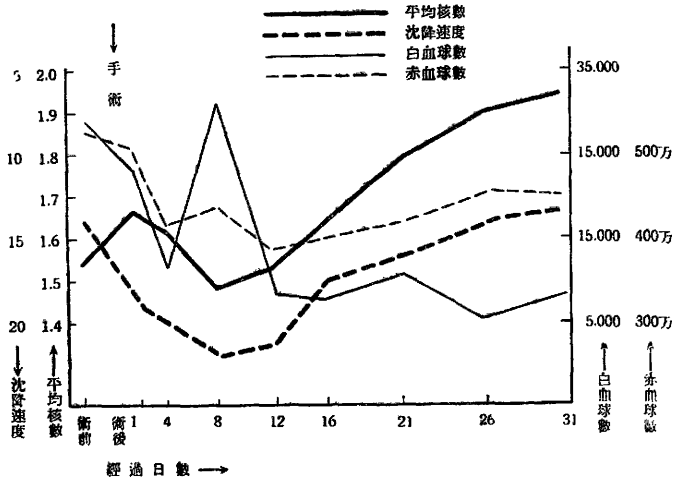
経過日数	白血球数	赤血球数	ザ血色素量	沈降速度		白血球各種百分率								核型					平均核数	備考	
				1時間	2時間	観察数	中嗜好性球	淋巴球	大核単球	「嗜好球」	肥細胞	骨髓型	プラ細胞	観察数	1型	2型	3型	4型			5型
手術前	9.860	422万	71%	10.5	16.0	200	90.0	8.0	2.0	0	0	0	0	100	71	23	6	0	0	1.35	8.7°C
1	21.040	452万	74%	22.0	24.8	〃	89.0	9.0	2.0	0	0	0	0	〃	80	14	6	0	0	1.26	38.9°C 排膿多シ
3	14.000	431万	73%	23.5	27.5	〃	92.0	6.0	2.0	0	0	0	0	〃	56	36	8	0	0	1.52	37.9°C 〃
5	9.240	437万	72%	25.0	26.0	〃	76.0	19.0	4.5	0	0	0	0.5	〃	63	30	6	1	0	1.45	38°C 〃
8	8.640	386万	65%	20.2	23.2	〃	74.0	20.0	3.5	2.5	0	0	0	〃	49	40	10	1	0	1.63	37°C 膿減少、食慾良好
14	10.000	355万	66%	21.2	23.0	〃	64.5	26.0	8.5	0.5	0.5	0	0	〃	48	43	9	0	0	1.61	11日目ヨリ平熱
20	6.720	397万	65%	20.0	22.0	〃	50.0	42.0	4.5	2.5	0.5	0	0.5	〃	33	52	15	0	0	1.82	ドレーン除去
27	5.560	422万	73%	19.0	23.0	〃	46.5	47.5	2.0	2.5	1.5	0	0	〃	30	49	19	2	0	1.93	経過順調
39	7.040	419万	70%	16.2	20.5	〃	48.0	44.5	5.0	2.0	0.5	0	0	〃	27	48	20	4	0	2.03	〃 47日目全治退院

[113]

各種外科的疾患ノ手術前後ニ於ケル赤血球沈降速度及ビ白血球ノ核移動ニ就テ

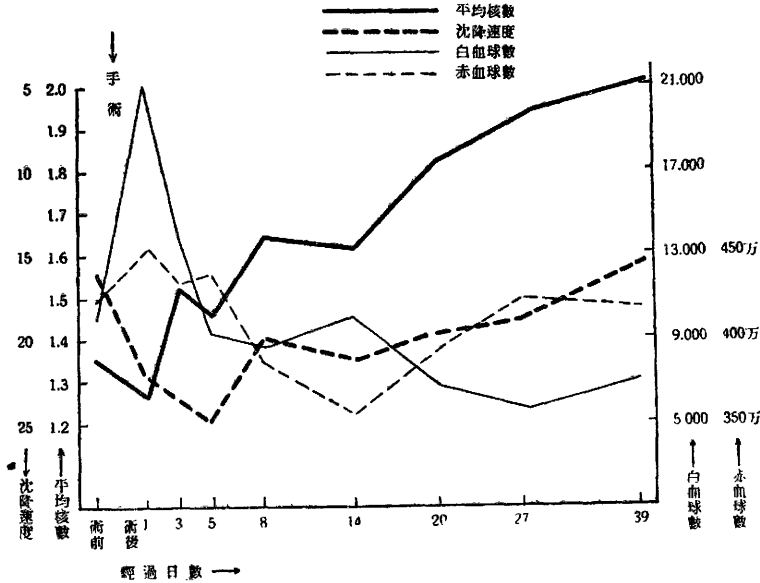
第 5 圖 沈降速度及ピ血液像

第 5 患者 山〇ト〇子, 女, 13 歳.



第 6 圖 沈降速度及ピ血液像

第 6 患者 丹〇千〇, 女, 39 歳.



大略並行シテ正常ニ迎フ。然シ平均核數ノ恢復ハ著シク早ク之ガ正常ニ復歸セルニ沈降速度ハニテ中等度ノ促進ヲ示ス。

白血球數及ピ白血球各種百分率トハ一定ノ關係ヲ認め難ク赤血球數, 血色素量トハ全経過ヲ通シテ見ル時僅カニ負ノ相關々係アルヲ認めタリ。

第 7 例

第 7 患者 吉〇進, 26 歳, 男.

1937 年 9 月 27 日入院 - 10 月 11 日死亡.

主訴 廻盲部ノ激痛.

現病歴 今朝(9月27日)朝5時頃突然廻盲部ニ疼痛ヲ覺ヘ數時間ノ後惡寒戰慄ト共ニ疼痛ハ全腹部ニ擴大

シ下腹部ニ著シキ緊張感ヲ覺エタリ。夕刻嘔吐1回アリ。

現症 不安恐怖ノ顔貌ヲ呈シ呼吸胸式ニシテ稍淺薄、脈搏ハ整調ナレ共稍頻數ニシテ緊張弱シ。口唇乾燥シ舌ニハ白苔ヲ被ル。胸廓ハ狹長ニシテ第1心音不純ナリ。腹部ハ輕度ニ陥凹シ上腹部ヨリ全體ニ亘リ板狀硬ニシテ壓痛甚ダシ。

診斷 蟲様突起穿孔ニ依ル汎發性腹膜炎。

手術及ビ手術所見 9月27日夜半入院即刻施行。熊莖御堂教授執刀。局所麻酔。右直腹筋外切開。腹腔ヲ開クニ濃厚黃色無臭ノ膿汁現ル。大網膜廻腸廻盲部ニハ僅少ノ癒着ヲ認メズ、蟲様突起ハ少シク屈曲輕度ニ肥厚シ根部ニ穿孔ヲ認メ孔ヨリハ薄キ無臭ノ膿汁流出セリ。ドクラス氏窩及ビ左側腹部ニモ多量ノ膿汁滲溜セリ。蟲様突起切除、膿汁吸引、「ゴムドレーン」「チガレットドレーン」ヲ挿入シ術ヲ終ル。

経過 術後一般症狀稍良好ニ向ヒタルニ3日目「イレウス」症狀ヲ惹起シ再手術ヲ行ヒ廻腸及S字狀腸部ノ吻合術ヲ施行ス。其ノ後一時小康ヲ得腹部モ柔軟トナリタルモ9日目頃ヨリ一般ノ衰弱加ハリ心臟衰弱又増悪シ14日目遂ニ鬼籍ニ入ル。

血液症狀 第8表 第8圖。

沈降速度 術前2.5mm 1時間値ニテ全ク正常ナリ、術後1日目尙4mm, stナリシガ3日目(再手術前)促進シテ20.8mmトナレリ。5日目22.0mm, stニ尙増加セシガ8日目一般症狀險惡ニ向ヘルニ拘ラズ18.0mm, stニ減少シ12日目尙15.0mm, stニ減少ス。

赤血球數 術前435万, 術後501万ニ増加シ一時減少ヲ見タルモ5日目再ビ524万ニ増加以後又減少セリ。

血色素量 術前83%, 術後99%ニ増加セルモ3日目81%ニ減ジ以後著變ナシ。

白血球數 術前16000, 術後3日目激減シテ6320トナリ再手術後モ増加セズ。5日目4440ニテ反對ニ稍減少ヲ來セリ。8日目ハ10280ニ増加シ12日目モ同様ナリキ。

白血球各種百分率 術前中性嗜好球ノ増加93%, 淋巴球ノ減少7.0%アリ 術後極ク輕度ニ淋巴球ヲ増加シ5日目14.0%ニ達セルモ以後又減少ヲ來セリ。大單核球ハ術前消失術後出現シタルモ3.0%以上ニ増加セズ。「エ」嗜好球ハ術前術後消失シ一度モ出現ヲ見ズ。肥肝細胞ハ術後1日目出現シタルノミ。

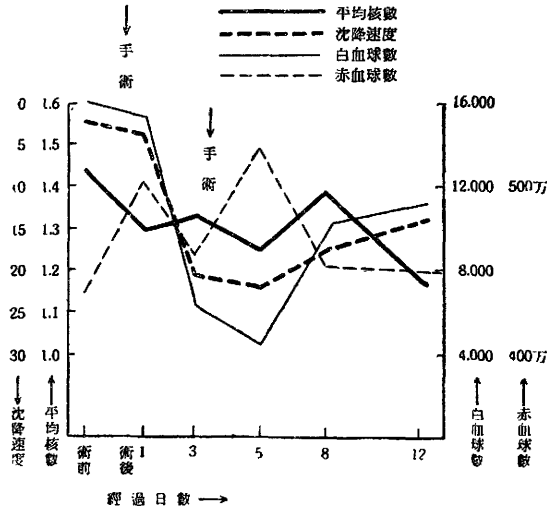
平均核數 術前1.44, 術後1.30ニ減少シ以後増加ヲ

第7表 血液沈降速度及白血球核移動ニ就テ

経過日數	白血球數	赤血球數	ザ血色素量	沈降速度		觀察數	中性球	淋巴球	大核單球	嗜好球	肥肝細胞	百分率		觀察數	核型					備考	
				1時間	2時間							骨髓型	アラ細大胞		1型	2型	3型	4型	5型		
手術前	16,600	435万	83%	2.5	6.0	200	93.0	7.0	0	0	0	0	0	100	66	26	6	2	0	0	術後40°C
術後1	15,360	501万	99%	4.0	7.5	"	87.0	9.0	3.0	0	1.0	0	0	"	73	24	3	0	0	0	37.9°C
3	6,320	459万	81%	20.8	23.0	"	86.0	13.0	1.0	0	0	0	0	"	73	22	2	3	0	0	腸閉塞症狀アリ
5	4,440	524万	85%	22.6	24.0	"	83.0	14.0	3.0	0	0	0	0	"	79	18	2	1	0	0	37.8°C
8	10,280	454万	85%	18.0	21.0	"	84.0	13.0	1.0	0	0	0	0	"	70	24	5	0	1	0	37.5°C
12	11,160	448万	85%	15.0	17.0	"	86.5	11.5	2.0	0	0	0	0	"	85	11	4	0	0	0	全身衰弱特ニ心臟衰弱増大ス

來サズ12日ハ1.19ニ尙減少セリ。即チ一般症狀ニ良ク並行セルヲ認ム。

第 7 圖 沈降速度及ビ血液像
第 7 患者 吉○進, 男, 26 歳.



第 3 章 總 括

余ハ急性汎發性腹膜炎患者 7 名 (蟲様突起穿孔ニ依ルモノ 6 名, 輸卵管炎ノ穿孔ニ依ルモノ 1 名) ノ手術前後ニ於ケル 沈降速度及ビ血液細胞ノ變化ヲ檢索シ得タル結果ヲ總括シテ述ブレバ次ノ如シ。 7 名ノ内順調ニ経過シ全治退院セ

ル 6 名ノ 總平均ハ 第 8 表及ビ 第 8—9 圖ノ如シ。

第 1 項 沈降速度

経過順調ナリシ 1—6 例ニ就キ述ブレバ, 手術前最小 10.5mm, st, 最大 25.2mm, st, 平均

第 8 表 血液像及ビ沈降速度 第(1—6)例平均表

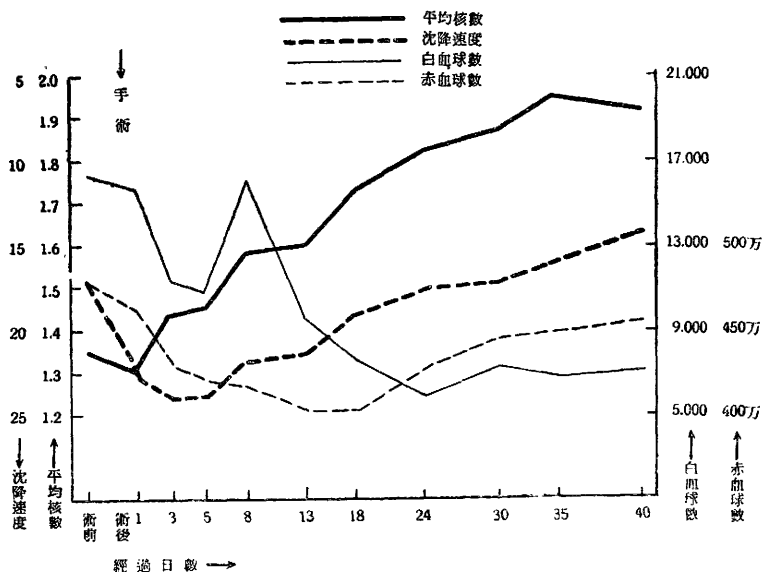
経過日数	白血球數	赤血球數	ザ血色素量	沈降速度		白血球各種百分率								平均核數
				1 間時目	2 間時目	中嗜好性球	淋巴球	大核單球	嗜好球	肥細胞	骨細胞	マラ細ズ胞		
手術前	16.346	484.5万	85.1%	17.3	20.8	85.0	10.7	4.3	0	0	0	0	1.355	
手術後 1	15.766	461.5万	83%	22.6	24.4	85.7	8.7	5.5	0	0	0	0.1	1.31	
3	11.266	431.8万	74.5%	24.2	26.2	88.6	14.7	4.9	0.6	0.3	0	0.4	1.426	
5	10.806	422.6万	73.3%	24.1	25.4	74.1	19.8	5.2	0.7	0.1	0	0.2	1.463	
8—	16.266	416.0万	75.8%	21.9	23.9	70.6	25.1	4.3	0.6	0.2	0	0.1	1.58	
13—	9.506	402.1万	72.3%	21.5	23.3	62.1	28.9	6.1	2.4	0.4	0	0	1.601	
18—	7.776	401.8万	71.0%	19.4	21.7	51.7	39.8	5.6	2.5	0.8	0	0.1	1.725	
24—	5.988	430.8万	75.8%	18.1	21.3	49.6	40.4	4.9	2.4	0.7	0	0	1.826	
30—	7.186	445.3万	77.0%	17.5	20.6	55.3	35.6	5.4	3.9	0.2	0	0.1	1.875	
35—	6.553	446.1万	78.0%	16.5	20.0	55.7	31.5	5.0	4.7	0.4	0	0	1.946	
41—	7.066	451.5万	78.1%	14.7	19.5	43.6	43.6	4.7	6.0	0.8	0	0	1.918	

17.3mm, st ナリ. 即チ輕度促進2名ヲ除キ他ハ皆強度ニ促進セリ. 術後ハ急激ニ増加シ大部ハ2日目, 一部ハ5日目最高値ヲ示シ平均各々24.2mm, 24.1mm, st ナリ. 其ノ後ハ症狀ノ恢復ニ並行シ徐々ニ遲延シタリ. 然シ恢復ハ極メテ緩慢ニシテ40日後ニ於テモ尙1例モ正常ニ復セ

ズ. 平均14.7mm, stヲ示シ中等度促進ノ状態ナリキ. 第7例(死亡例)ハ術前2.5mm, st 全ク正常値ヲ示シ術後尤進シ5日目22.0mm, stニ増加セシガ, 其ノ後病狀増悪セルニ反シ遲延ノ傾向ヲトリ, 死亡2日前15.0mm, stニ減少セリ.

第8圖 血液像及ビ沈降速度

第8表 圖示



第2項 白血球數

最小9860, 最大29760, 平均16346ナリ. 術後ハ第6例ヲ除キ全例ニ於テ減少シ, 早キハ2日目, 遅キモ13日目迄ニ一度正常數ニ復歸セリ. 然シ正常ニ復歸後モ膿汁滯溜其ノ他ノ原因ノ爲再度ノ白血球增多症ヲ招來セルモノ多ク平均シ18日以後ハ全ク生理的正常數値内ヲ動搖セリ. 死亡例ニ於テハ術前16000, 術後減少シ5日目4440トナリ病狀險惡ナルニ拘ラズ寧ロ白血球減少ヲ來セリ. 然シ其ノ後ハ輕度ノ增多症ヲ續ク.

第3項 赤血球數及ビ血色素量

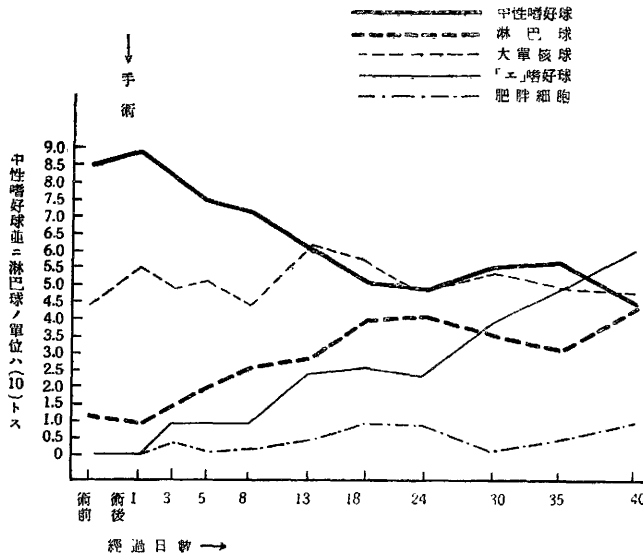
術前赤血球數ハ最小422萬, 最大532萬, 平均484.5萬ニシテ, 血色素量ハ最小71%, 最大98%, 平均85.1%ナリ. 術後兩者共殆ンド並行シ

テ漸次減少シ13—18日目は最小値401.8萬, 71%ヲ示シ其ノ後ハ増加ノ傾向ヲ迎レリ. 退院前平均赤血球數ハ451.5萬, 血色素量ハ78.1%ニ達セリ.

第4項 白血球各種百分率

術前, 中性嗜好球ハ77.5%—90%, 平均85%, 淋巴球ハ6%—16%, 平均10.7%, 大單核球ハ2%—6.5%, 平均4.3%ニシテ, 「エ」嗜好球, 肥胖細胞ハ全例ヲ通ジ消失シ骨髓細胞及ビ「プ」ラズマ細胞モ亦出現セズ. 術後, 中性嗜好球ハ大體白血球數ト増減ヲ共ニスルモ, 8日目70.6%トナリ白血球數ヨリ一步早く正常ニ復セリ. 淋巴球ハ中性嗜好球ト正反對ノ増減ヲナシ共ニ8日目25.1%トナリ正常ニ復歸セリ. 然シテ18日以後ニ於テハ反對ニ比較的淋巴球ノ増加ヲ來

第 9 圖 第 3 表 圖 示 (白血球各種百分率)



セリ。大單核球ハ術前、術後ヲ通シテ著シキ變化ヲ示サズ。「エ」嗜好球ハ術後早キハ3日目、遅キハ8日目ニ至リテ出現ヲ見、漸次増加ヲ續ケ35日以後ニ於テ正常ヨリ僅ニ増加セリ。肥胖細胞及ビ「エ」嗜好球ハ術後僅ニ出現ヲ見タルモ骨髓細胞ハ全経過中遭遇セザリキ。

第7例ニ於テハ術前、他例同様中性嗜好球ノ増加93%、淋巴球ノ減少7%ヲ示シ、術後ハ僅ニ淋巴球ノ増加(14%迄)ヲ見タルモ亦再ビ減少シ、白血球數減少シ正常ニ復セルニ拘ラズ正常率ニ復歸セズ、「エ」嗜好球ハ全経過ヲ通ジ出現セズ。

第5項 平均核數

術前最小1.17, 最大1.54, 平均1.355, 著シク核型左方移動セルヲ認ム。術後1日目ハ極ク輕度ニ減少シ以後ハ一般症狀輕快ニ並行シテ増加シ、早キハ27日目(第1例)正常ニ復歸シ、35日目ハ平均1.946トナリ、全例正常ニ近ヅケリ。

死亡例ハ術前1.44, 術後僅ニ減少シ増加ノ傾向ヲ見セズ、死亡前ハ更ニ核數ノ減少ヲ見タリ。

第6項 血液像ト沈降速度トノ關係

白血球數及ビ白血球各種百分率ハ其ノ増減ノ

變化全ク急激ニシテ、沈降速度ハ之ニ反シ極メテ徐々ニ變化スルヲ以テ全経過ヲ通ジテ見ル時一定ノ關係ヲ認メ難ク、赤血球數及ビ血色素量ハ術後沈降速度ノ増加ニ從ヒ減少シ速度ノ遲延ト共ニ明カニ増加シ行キ、兩者ノ間ニハ一定ノ負ノ相關々係アルヲ認メ得。

平均核數トハ一部沈降速度ノ強度ニ促進セルモノニ於テハ手術前ヨリ大略並行シテ増減シ、一部沈降速度ノ促進輕度ノモノニ於テハ術後充進シテ病狀ト一致シタル後(術後3日目以後)並行シテ治癒経過ニ從ヒ正常ニ復歸スルヲ認ム。然シ平均核數ノ恢復ハ沈降速度ニ比シ一段ト急速ニシテ、平均核數ノ正常トナレル35日目尙沈降速度ハ16.5mm, stニテ強度ノ促進ヲ示シ居レリ。

然シ死亡例ニ於テハ術後5日目強度ニ促進シタルモ、其ノ後一般症狀險惡トナリ、平均核數其ノ他血液像ハ増悪ノ傾向アルニ、沈降速度ノミハ遲延シ始メ、死前2日目平均核數更ニ一段ト減少セルニ、沈降速度ハ之ニ反シ尙一段ト遲延ヲ見タリ。即チ兩者ハ経過順調ノ時示シタルガ如キ並行關係ヲ示サズ反對ニ兩曲線ハ互ニ交叉スルニ至レリ。

第 4 章 考 按

炎症性疾患ニ依リ沈降速度ノ促進スルハ Pahr-
 aeus Linzienmeier = 認メラレシヨリ以來凡テノ
 學者ニ承認セラレシ所ニシテ、促進ノ程度ハ炎
 症ノ強サ及ビ廣サニ關シ、尙破壊産物ノ吸收ノ
 多少ニ比例スルモノナリ。今回實驗セン汎發性
 腹膜炎ニ於テモ強度ノ促進ヲ示シ平均17.3mm,
 stニシテ、限局性腹膜炎患者ノ平均15.1mm, st
 ニ比シ一段強度ノ促進ヲ示シタリ。然シ汎發性
 腹膜炎ガ限局性ノ腹膜炎ニ比シ、炎症ノ強烈ニ
 シテ廣汎、破壊産物ノ吸收著シク、爲ニ一般症
 狀ノ險惡ナルハ到前述ノ沈降速度ノ差ニ比スベ
 クモナシ。之ハ實ニ急性蟲様突起炎ニ於ケル沈
 降速度ガ喬ニ病變ノミナラズ病日ニモ關係スル
 モノニシテ、例ヘバ第7例ノ如ク炎症強烈ニシ
 テ全腹部ニ擴大シ一般症狀極メテ重篤ナルニ拘

ラズ、沈降速度ハ初診時(發病後16時間目推定)
 2.5mm, stニテ全ク正常値ヲ示シ、翌日(30時間
 後)4mm, stニテ僅ニ促セルノミナルヲ見テモ
 了解サル、如ク、如何ニ炎症強烈ナリトモ發病
 後24時間以内デハ促進ヲ來サズ、病狀ト一致セル
 促進ヲ示スニハ48時間以上ヲ要スト認メラ
 ル、故ニ手術前ノ検査ニ於テハ正常又ハ輕度ノ
 促進ヲ示スノミニシテ未ダ充分ノ促進ヲ來サ
 ルモノアリ。之等凡テノ平均比較ナルヲ以テ斯
 クノ如キ小ナル差ヲ示シタルモノト考ヘラル。

然シ術後沈降速度ノ完全ニ促進セル後ハヨク
 病狀ト治癒經過ニ並行シ、第9表、第10圖ニ示
 セシ如ク炎症強烈、廣汎ニシテ身體ニ多大ノ障
 碍ヲ與ヘタルモノ程、沈降速度促進シ且ツ之ガ
 恢復モ著シク遲延スルヲ認メ得。

第 9 表 沈 降 速 度 (各種蟲様突起炎比較表)

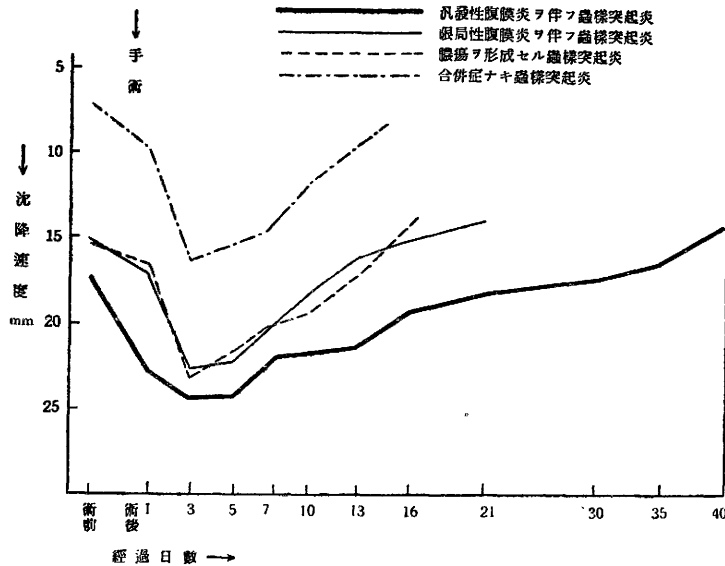
經過 日 數	合併症ナキ急性 蟲様突起炎		限局性腹膜炎ヲ 伴ヘル急性蟲様 突起炎		膿瘍ヲ形成セル 亞慢性蟲様突起 炎		汎發性腹膜炎ヲ 續發セル蟲様突 起炎	
	1.St	2.St	1.St	2.St	1.St	2.St	1.St	2.St
術 前	7.2	11.1	15.1	18.5	15.3	19.0	17.3	20.8
術 後								
1	9.8	14.1	17.1	19.6	16.7	19.2	22.6	24.4
3	16.1	19.1	22.6	23.7	22.9	24.6	24.2	26.2
5	15.4	18.6	22.2	23.6	21.8	23.6	24.1	25.4
7—	14.8	18.9	20.4	22.2	20.1	22.3	21.9	23.9
10—	11.9	16.2	18.2	20.7	19.3	21.4	—	—
13—	9.3	13.9	16.2	18.7	17.2	20.0	21.5	23.3
16—			15.1	18.1	14.8	19.0	19.4	21.7
21—			14.1	17.1			18.1	21.3
30—							17.5	20.6
35—							16.5	20.1
40—							14.7	19.5

次ニ血液細胞ノ變化即チ白血球數、赤血球
 數、白血球各種百分率、及ビ平均核數ノ變化ニ
 就キ限局性腹膜炎ト比較スルニ、白血球數ハ
 16470 : 16346ニテ極ク輕度ノ減少ヲ示シ、赤血
 球數ハ446萬 : 484.5萬ニテ著シキ増加ヲ示セ
 リ。之ハ汎發性腹膜炎ニ於テハ中毒症狀高度ナル
 爲ニ造血臟器ノ機能ハ不全又ハ麻痺ヲ招來シ

白血球ノ新生障礙セラル、爲ト、一方赤血球ニ
 於テハ Baner Enderlen u. Hatz 中等ガ稱ヘル
 如ク體液ノ缺損夥シキ爲ニ血液濃縮シ單位體積
 内ノ赤血球數ノ増加セルモノアルニ依ルナリ。

白血球各種百分率ニ於テハ 中性嗜好球 82.1 :
 85%, 淋巴球 14.4% : 10.7%, 「エ」嗜好球 0.1 : 0
 ニシテ、 中性嗜好球ノ増加、 淋巴球ノ減少、

第10圖 第9表圖示



「エ」嗜好球ノ消失等，白血球百分率ノ變化ヨリ高度ニシテ，特ニ平均核數ハ1.675 : 1.355ヲ示シ著シク核型左方移動ヨリ強度ナルヲ示シ，ヨク汎發性腹膜炎ノ限局性ノモノニ比シ一般病狀ノ重篤ナルヲ指示ス。

術後ノ経過モヨク疾病ノ治癒経過ト並行シ，本症ガ限局性ノモノニ比シ著シク治癒遷延セン如ク白血球百分率ノ正常復歸モ一段ト遅延シ，特ニ平均核數ニ於テハ限局性ノ21日目ニ比シ本症ニテハ最早キモノニテモ24日ヲ要シ，多クハ35日目以後ニ於テ正常ニ近ヅキタリ。

之ヲ要スルニ，血液像特ニ中性嗜好核分葉數(平均核數)ハ發病初期ヨリ炎症ノ強烈，廣汎及ビ一般症狀ノ輕重ニ並行シテ著シキ變化ヲ呈シ，ソノ恢復ニ從ヒ漸次正常ニ復歸スルモノナリ。之ニ反シ沈降速度ハ一定時間ヲ經過シタル後強度ニ促進シ，病狀ト一致シタル後ハ，治癒経過ニ從ヒ平均核數トヨク並行シテ恢復スルヲ認ム。

然ルニ第7例ニ於テハ血液像ノ變化高度ニシテ死亡前尙惡化シ，特ニ平均核數ノ如キハ著シキ減少ヲ示シ症狀ノ甚ダシク重篤ナルヲ指示スルニ拘ラズ，沈降速度ハ之ニ反シ死亡前7日既ニ著シキ遅延ヲ來シ，2日前ニハ重篤ナル一般症狀ニ反シ更ニ遅延セリ。

今日迄余ノ報告セル所ニテモ明カナル如ク，血液像ノ變化ハ急激ニシテ，唯平均核數ノミハ比較的徐々ナレドモ尙沈降速度ニ比シ一段ト急速ニシテ，沈降速度ハ常ニ平均核數ノ一步後ヲ扨從セン状態ナリシニ，本死亡例ニ於テノミ沈降速度ガ血液像ノ變化ニ先立ち，寧ろ血液像ノ惡化ニ反シ遅延ヲ見タルハ全ク新シキ所見ナリ。

沈降速度ノ死前ニ遅延スルハ今日迄屢々報告セラル、所ニシテ，余ハ術後死亡セン數例ヲ經驗シ之ガ沈降速度ト血液像ノ關係ヲ觀察シ得タレバ稿ヲ新シクシ一括報告スベク，今回ハ唯事實ヲ記載スルニ止メン。

結 論

余ハ蟲様突起及ビ輸卵管炎穿孔ニヨリ惹起セ

ラレタル急性汎發性腹膜炎患者7名ニ就キ，手

術前後ノ沈降速度及ビ血液細胞ノ變化ヲ觀察シ次ノ結論ヲ得タリ。

1. 沈降速度ハ一般ニ手術前強度ニ促進ス、然シ正常又ハ輕度ノ促進ヲ示スモノモアリ。術後ハ尙促進シ3—5日目最高ニ達シ其ノ後ハ治癒經過ニ平行シ徐々ニ正常ニ復歸ス。然シ恢復ハ極メテ緩慢ニシテ術後40日目尙輕度又ハ中等度ノ促進ヲ示セリ。然シ死亡例ニ於テハ死前一般症狀ノ險惡ナルニ反シ遲延スルモノヲ認メタリ。

2. 白血球數 術前最小9860, 最大29760, 平均16346ニシテ術後減少シ3—18日目ニ一度正常數ニ復ス。然シ正常數ニ復歸後ニ於テモ膿ノ貯溜ニヨリ再度ノ增多症ヲ來スコト屢々アリ。18日目以後ハ大體正常數ヲ上下セリ。

3. 赤血球數 術前最小422萬, 最大532萬, 平均484.5萬ナリ, 術後漸次減少シ平均シ13—18日目最小トナリ401.8萬ヲ示シ, 以後徐々ニ増加シ40日目451萬ニ達セリ。

4. 血色素量 術前71%—98%, 平均85.1%ニシテ術後3日目急激ニ減少シテ74.5%トナリ其ノ後モ僅ニ減少ヲ續ケ18日目71%トナリ, 以後ハ徐々ニ増加シ40日目78.1%ニ達セリ。

5. 白血球各種百分率 術前高度ノ中性嗜好球ノ増加(85%), 淋巴球ノ減少(10.7%)及ビ「エ」嗜好球並ニ肥胖細胞ノ消失ヲ認メ, 術後一時中性嗜好球85.7%, 淋巴球8.7%トナリタルモ以後正反對ノ過程ヲ經テ3—13日目ニ正常率ニ

復歸セリ。其ノ後「エ」嗜好球ハ輕度ノ増加ヲ續ケ, 淋巴球ハ屢々相對性增多症ヲ呈セリ。肥胖細胞ハ術後出現消失一定セズ, 「プラズマ細胞」モ術後僅ニ出現ヲ見タリ。死亡例ニ於テハ術後僅ニ淋巴球ノ増加(14%迄)ヲ見タルモ死前ニハ亦減少シ, 「エ」嗜好球ハ全經過中出現セズ。

6. 平均核數 術前最小1.17, 最大1.54, 平均1.355, 極メテ高度ノ核型左方移動ヲ示ス。術後輕度ニ尙減少シテ1.31トナリ, 以後治癒經過ニ並行シテ順調ノモノハ核數ヲ増シ早キハ24日目正常ニ復シ, 他ハ35日目正常ニ復歸セリ。死亡例ニ於テハ核數ノ増加ヲ見ズ死前更ニ著シク減少セリ。

7. 血液像ト沈降速度トノ關係 赤血球數, 血色素量トハ全經過ヲ通シテ見ル時一定ノ關係ヲ認ム。平均核數トハ術前沈降速度ノ強度ニ促進セルモノニテハ, 術前ヨリ大體並行シテ經過シ, 一部術前輕度ノ促進ヲ示セルモノハ術後3日目速度ノ強度ノ促進ヲ見タル後, ヨク兩者ハ治癒經過ニ並行シ正常ニ復歸ス。然シ平均核數ノ恢復ハ沈降速度ニ比シ一段ト急速ナリ。

但シ死亡例ニ於テハ死亡前血液像ノ變化増惡シ平均核數減少セルニ拘ラズ沈降速度ノミハ反對ニ遲延ヲ見, 並行關係ヲ見ズ双方ノ曲線相交又スルヲ見ル。之レヲ要スルニ, 核型移動ハ沈降速度ヨリモ一般ニ臨床的所見ニヨリ一致スルコトヲ認メタリ。